

氏名	脇谷 勇夫		
学位の種類	医学博士		
学位授与番号	乙 第 1766 号		
学位授与の日付	昭和62年 3 月 31 日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）		
学位論文題目	膵腫瘍組織における腫瘍マーカー（CEA、TPA、CA 19-9、POA、フェリチン）と膵逸脱酵素（Amylase、Elastase 1）の免疫組織化学的検討		
論文審査委員	教授 折田薫三	教授 木村郁郎	教授 粟井通泰

学位論文内容の要旨

膵腫瘍26例の手術，剖検組織につき，CEA，TPA，CA 19-9，POA，フェリチンと Amylase，Elastase 1 を免疫組織化学的に染色し検討した。膵腫瘍の管腔構造へ CEA と CA 19-9 は腫瘍から分泌され，TPA と POA は分泌されないマーカーと考えられた。膵癌組織では症例ごとで各腫瘍マーカーは染色性が異なり一定のパターンを示さなかったが，CEA と TPA で組織染色性に正の相関を認めた。膵癌組織での染色陽性率を比較すると血清レベルで最も鋭敏と考えられた CA 19-9 が CEA，TPA より低率であった。膵癌組織における局在は CEA，TPA，CA 19-9 では癌細胞の luminal border，細胞辺縁，細胞質内に種々の程度に，POA は癌細胞の細胞質内に染色された。膵癌組織における組織分化度と染色性の相関をみると，CEA，TPA，CA 19-9 では高分化型の例で染色性が強陽性となる傾向を認めた。膵腫瘍において組織染色陰性で血清レベルが高値となる症例が TPA，CA 19-9，POA でみられ，これらでは正常部膵管上皮が染色され，同部および胆管上皮からの血中への逸脱が示唆された。島細胞腫で TPA，フェリチン，Elastase 1 が陽性に染色されたが，Apudoma では全て陰性であった。Elastase 1 が腫瘍細胞内に染色される Elastase 1 産生腫瘍の存在が示唆された。

論文審査の結果の要旨

膵癌23例を含む膵腫瘍26例の膵組織標本について5種の腫瘍マーカーと2種の膵逸脱酵素を免疫組織学的に染色し，同時に血清，尿中レベルの検索を行い，幾つかの新知見をえている。たとえば血清レベルで従来最も鋭敏と考えられてきた CA 19-9 が，組織レベルでは

CEA, TPA よりも染色性の低いことなどの知見が, 各種マーカーの代謝過程の差で説明がつくなど, 肺癌の早期診断にマーカーを用いる上で重要な知見をえている。臨床上価値ある業績であり, 本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。